



歯なしの話

～ 津山歯科医師会 ～

歯がすべてなくなった口にはめる入れ歯を総入れ歯と呼びます。今回は総入れ歯についてお話ししましょう。

歯がなくなると様々な機能が失われてしまいます。食べ物がかめない、発音がうまくできない、うまく飲み込めない、口のまわりが落ちくぼんで見栄えが悪いなど、とても不快な状態に陥ってしまいますね。

総入れ歯を入れて歯があった状態に少しでも近づけることによって、様々な失われた機能を回復することができます。

総入れ歯を作る時、歯の位置はもともとその人が持っていた歯の位置に並べるのが原則です。しかし歯の無い状態から、かつて歯があった場所を特定するのはとても困難なことです。顎堤の吸収程度は個人で千差万別です。上下のかみ合わせも出っ歯だった人もいれば、逆に受け口だった人もいます。



歯科医師はどのようにして個人に合った総入れ歯を作るのでしょうか。

まず顎堤の型を取ります。今では速く硬化する印象材があり、比較的短時間に楽に型を取ることができます。

次に上下の顎のかみ合わせを取ります。入れ歯の歯を並べる位置、かみ合わせの高さを決定した後、上下の顎がどの位置でかみ合わさるのか注意深く決定します。

上下の顎を「かんでください」と閉じるように指示されるとした顎が前方にでてくる人が多くいます。もし総入れ歯を作る機械があったら注意してください。この段階はとても大切です。総入れ歯の良し悪しはここで決まると言っても過言ではありません。次に試適を行います。人工の歯が並んだ原型を口に入れてかみ合わせがずれていないか、審美的に回復されているかを最終チェックします。

そしていよいよ総入れ歯をはめることができます。

このようなステップを踏んで作られる総入れ歯をはめて帰った日に、何でも食べられるからとトンカツを食べるのは待ってください。個人の口の形に合わせて型を取って作られた総入れ歯ですが、十分に機能を発揮するまでには口の中に入れてからかなりの期間を必要とします。

総入れ歯でどの程度まで歯があったときのようにかめるかという、50%ぐらい回復するのが限度と言われています。総入れ歯が口の中で働いている状態は模型の上では再現できません。そこで総入れ歯を入れた日から口の中で使いながら調整し育てていくのだと考えていただきたいものです。

総入れ歯をはめたのにすぐには食べられないとは少し残念な話になったと思われるかもしれませんが、逆に身体の一部になった総入れ歯ほどありがたいものはありません。

次回は総入れ歯との付き合い方についてお話したいと思います。



お問合せ先：津山市健康増進課 ：32-2069